

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常に利用者の立場に立って心身両面にわたる幅広いサービスを提供し心豊かな自立生活を送っていただけよう、自身も心豊かになるために努力し共に成長していく。ほほえみと思いやりと助け合いの心に満ちたふるさとぬくもりを提供すると共に、24時間安心の光をそそぎ、地域に開かれた灯台となることを目指すという事業所独自の理念をくつりあげています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申送り前に全員で理念を復唱し、日々、各自認識を深め、業務中も常に意識しながらサービスを提供している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内誰でも見えるところに理念を掲示し、面会時などに確認できる。地域の方、ボランティアの方、市職員の方など、気軽に来所していただき、確認してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶を交わし、気軽に話せる関係の構築ができています。地域の方が入所しており、気軽に会いに来られています。また、ホーム内の行事活動に地域の方にも声を掛け、参加があります。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「花一杯運動」「夏祭り」「れんげ祭り」「コスモス祭」等々、防災活動〔三島江防災会〕の会合、自治会「水路敷の清掃活動」など地域の活動に利用者とスタッフ共に参加し、地域の方と交流を図っている。また、地域の方のボランティアの受け入れを行い、それぞれの無理の無いスケジュールで交流が出来る。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、地域の代表の方に認知症への理解のための情報を提供すると共に、地域の方が高齢者のことで抱え込むことを防げるように、気軽に相談していただける窓口としても案内している。また、地域の美化活動「花一杯運動」では、利用者の方と地域の高齢者の方と共に、花を植える作業などを行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	出入り口の施錠は、見守り者がいる際は、開錠するよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、ホーム内を構成メンバーに視察してもらい、利用者の実際の生活の様子やサービスの状況を見てもらう機会を設けています。また、外部評価の結果の公表も行い、改善点について、一緒に考えて下さっています。そして、実際に実行している例もあります。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の相談員の方が定期的に来所され、利用者一人一人と面会されたり、サービスの状況を観察し、その後、助言や利用者の発言内容の代弁、感想など報告があり、参考にさせてもらい、確りと受け止めている。また、市町村主催の研修会参加、各種報告も確り行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修など外部研修で学んだりして、施設内で報告している。また、施設内研修で権利擁護活動について勉強会を行い、必要性の検討をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルもあり、スタッフ間で認識を高める為勉強会を行ったり、外部の勉強会に参加してきたものが報告したりして、知識を習得し、理解を深め、全職員が注意深く携わっています。同時に、職員の介護疲労対策で福利厚生活動のみではなく、相談体制の確立がある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの特質にあった職員を配置し、利用者とスタッフがバランスよく良好な関係が保てるよう、適時配置換えを必要に応じ行う場合がある。報告は管理者から家族へ報告している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の充実が図れている。資格取得など自己研鑽を勧めるとともに、勉強会への参加を勧め、段階に応じ、外部研修へも本人の希望も考慮し、参加できるよう配慮している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員との交流や、相互間の訪問等行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	無理な勤務体制のない調整の努力と希望休の確保を行い、休暇には十分なりフレッシュができるよう配慮し、気持ちを切り替えて業務にあたれるようメリハリをつけてもらっている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人一人の得意分野を活かせる様にしている。年1回のスタッフの自己評価表を確認し、日々の業務態度なども観察し、面談を行うなどして、個々の意見を聞き、評価し、アドバイスをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントを行うが、1度のアセスメントでは不十分なため、徐々に知りえた内容をアセスメントに追加している。面接を行い、マンツーマンでのコミュニケーションをとり、自然に意向となる情報の収集を行い、本人の想いを尊重している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前より見学や相談を受け、家族の話す内容を傾聴し、家族の想いを尊重している。回を重ね、徐々に心を開いてもらえるよう、工夫している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスが利用できるように多職種との連携をし、いつでも利用できる体制がある。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を通じて徐々に馴染める雰囲気作りをする。はじめの内は環境の変化により、認知症高齢者は不安を感じていたり混乱している事を想定し、テーブルの配席に配慮したり、リラックスできるように本人の居場所の確保に努めている。また、家族へもなるべく多くの面会をしてもらえるよう声掛け行なっている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、食事を中心に清掃、レクリエーションの中で、利用者の得意なこと、知っている事を教えてもらっている。例えば、調理方法や園芸、手芸の方法を教えられ、実際に行っている。また、相談を受けるだけでなく、意見を求めたり、主体性を持ち過ごせるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンス時に本人の様子を伝え、どのようにしたら本人が喜ぶのか教えていただいたり行事などに一緒に参加できるようにすすめている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の今までの想いとこれからの想いを聞き、受け入れ互いに寄り添えるように、本人の様子を月状況表にまとめ、報告し、面会時等に家族だけの空間で過ごせるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば、地域の方が入所しているので、「家に帰りたい」という要望に、一緒に帰る支援を行ったり、友人と電話で話したいときは話せるよう支援し、お手紙、年賀状などの支援をしている。美容院へも今までの馴染みの場所へ行ける様支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	交流できるよう工夫したり、利用者各々の日常生活を通じて、利用者同士それぞれ負担とならない役割を一緒にできるよう支援している。また、個々に合った関わり合いができるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状や広報誌の送付など、関係を続けていく体制がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、その後も機会を見つけては面接を行い、リラックスした状態での会話の中から意向を聞きだせるよう工夫している。また、困難な場合においても、日常生活の中で好む事、嫌がることを観察し、配慮しながら工夫している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に、家族、本人から具体的に教えていただいたり、日常のコミュニケーションの中で本人の話に注目し、情報を収集している。また、居宅のケアマネージャーや利用していたサービス事業所等からも、カンファレンス時など、必要に応じて情報収集を行っている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれの生活リズム、スタイルを観察し、ADLの状況、疾病の状況を把握し、それぞれに合った援助方法で援助している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所前のケアマネージャーやサービス事業所、主治医等に連絡し、話し合える場を設定し、どのような支援方法が望ましいのかなど、様々な専門性からの助言や本人、家族の意向を元に介護計画を作成し、交付し同意を得ている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヶ月に1度介護計画を作成し、変化が生じた場合はカンファレンスを開き、状況報告を行い、必要に応じて新たな課題の設定、新たな計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援の内容、過ごしている様子を具体的表現で記録し、課題に直接関係している内容を把握し、スタッフや看護師からの情報を得ながら、定期的にモニタリング・フロアー会議を行い、評価・考察している。それを元に、計画の変更の必要性を考える事もある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合により、付き添いによる病院受診援助をしている。また、れんげ荘診療所との連携による回診を月2回行ない、歯科・眼科往診など柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議において、利用者の現状を伝え、各専門性において出来ることの情報提供をしてもらっている。例えば、消防署と地域の協力では、災害時等の対応として、保存食、避難場所など互いに協力し合えるように情報提供を行なっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向があれば他のサービス事業者との話し合いを行い、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の状況に応じ、権利擁護などの必要性を勘案し随時、本人の意向を確かめるなどして、地域包括支援センターの職員の方と協働し、支えていけるよう体制を確保している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>「看取りに関する指針」を作成し、具体的な内容を挙げている。法人の診療所と密な連携により、体制を整え、対応可能な準備を行なっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居時など、カンファレンスなどを通じて本人・家族の意向を元に決定し、転居先との情報交換を確り行ない、本人のダメージを想定し、ダメージを最低限に抑えられるよう、本人に寄り添いながら住み替え作業に配慮している。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>基準でもあるように「言葉使いは仕事の質のバロメーター」とあり、指示的、命令的な言葉掛けを絶対しないようにしている。また、本人の性格を把握し、個人に合った内容の話をするように心掛けている。また、記録は施錠のあるロッカーに管理するなど、取り扱いに注意している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常会話の中で、個々に声かけを行い、一つ一つの作業や行動において、了解を得たり、これでいいか確認をし、表現しやすいようにし、本人の思いに答えている。また、選択肢を提供したりして、選び判断しやすいように工夫している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の過ごし方の把握に努め、本人の過ごしやすいように距離を保ち、必要に応じ声掛けを行い、居場所の確保などの支援を行なっている。また、本人がいつも居る場所を把握し、本人がそこですごしやすいように、家具などの配置に配慮している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎朝、本人に好みの洋服を選んでもらい、尊重している。本人の行きつけの店に送迎をし、好みのヘアスタイルを聞き、満足できるよう支援している。</p>	

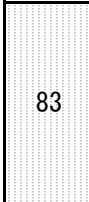
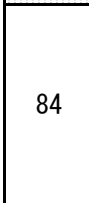
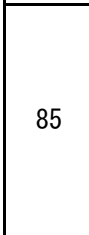
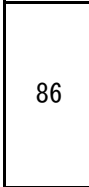
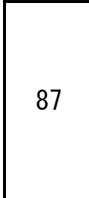
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人にメニューを見ていただき、キザミの希望を確認する。エプロンを着用してもらい、共に盛り付け、配膳など共同作業をしている。また、片付けについても、食器洗い、テーブル拭きなどそれぞれが役割としていることを中心に、共同作業している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのものを本人が購入し、個別に冷蔵庫で保存している。希望時に飲食の支援をしている。また、本人の趣向食については、誕生日会などで出すなど工夫している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導を行い、パット内失ゼロを目標に支援し、自尊心を尊重し、失敗していても絶対に咎めたりせず、卒なく素早く取り替える介助を行い、清潔保持を出来るように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の望む時間に入浴できるように、日々確認を行ない、長湯好き、ぬるめ湯好きなど、個々の好みの湯でリラックスして入浴できるよう援助している。また、入浴日以外でも足浴やれんげ荘本体の大浴場に行ける様支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠パターン（室温調整、照明の調整、入眠時間、起床時間、排泄時間など）を把握し、個々の状況に応じ、巡視時当に確認、支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習慣としていること（家事・日記など）や趣味としていた事を把握し、それが継続的にできる環境への配慮により張り合いと喜びを実感でき、また、職歴を活かした作業や、買い物や散歩により気分転換ができるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	首から財布を下げ、衣服に忍ばせている利用者やカバンを布団の中で管理している入居者がいる。買い物に行くときも、あれこれ指示したりせず、本人の欲しいものを買える支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩へのお誘いをしたり、本人の希望があれば行きたい場所へ出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人から「デパートに行きたい」と申し出があれば、家族もしくはボランティア、スタッフが対応できるようにしている。また、外出行事に取り入れられたりすることもある。また、年間・月々の行事計画があり、お花見、近くの公園、河川敷きなどに家族にも声を掛け、外出支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から「家族に電話したい」と申し出があった場合など、通話の支援をしている（公衆電話設置あり）。また、郵便物のやり取りなど自らできるように郵便局まで行き投函するまでの支援もしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所されたときは笑顔で受け入れ、ホールや自室など好きな場所で過ごせるよう配慮し、本人・家族にお茶を出し、ゆっくりした時間を共用できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などで全職員が理解し周知できるよう取り組み、身体拘束における弊害なども理解し、利用者の人権の尊重した支援が常時行なわれるよう徹底している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>転倒に関する説明を行い、本人の自由の確保と尊厳を確保により、リスクが発生する事を説明する。また、利用者の暮らしを尊重した対応について、家族の思いなども取り入れ工夫している。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>本人の日常の状態を把握し、表情や動作を注意深く観察する事で、早期発見に努め、速やかに看護師等に状況報告をし、対応方法など指示を仰ぎ、関る他のスタッフに正確に申し送りしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の効用、副作用の勉強会にて知識を深めている。また、処方箋を確認するなどして、一人ひとりの服薬内容を確認し、副作用などの症状がないかなど、日常生活の中で観察している。また、変化が見られたら看護師報告している。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘症の方の把握をして、状況に応じ水分補給など無理のない運動や線維の多いものを提供している。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、一人ひとりうがいができるように声掛けし、口腔ケアの大切さを意識付けし、口の中に有機物が残らないようにしている。義歯の方は義歯を外し洗浄を進めている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食べる量を把握し、無理なく摂取できるよう調節し、腰部湾曲などがある方については椅子の背もたれにクッションを当てるなどして姿勢の確保と箸を持たない方にはスプーンなどを勧めるなどしてなるべく自立した摂取ができるように支援している。嚥下困難な方にはトロミ剤の使用をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを徹底し、必要に応じマスクの装着を勧めている。また、食事や排泄に携わる時は手袋を装着して行なうなど徹底している。また、不潔なものや清潔なものを確り区別した環境を徹底している。また、職員の家族の感染がある場合や利用者の家族に感染がある場合は、施設への出入りの制限を行う事もある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の使用後はその都度洗剤で洗い、食器乾燥機により熱消毒を行ったり、アルコール消毒を行なっている。また、使用前にも必ず洗浄後使用している。台所のシンクや流しなど毎回洗浄し、冷蔵庫も定期的に賞味・消費期限の確認を行っている。また、冷蔵庫の中、棚の整理を定期的に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花などを植え、門扉を開け放し、訪問しやすい雰囲気作りを行なっている。また、地域の方にも気軽に着ていただけるよう声かけをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下の床は二重構造で歩き易く、光の差込が強い窓についてはカーテンを引いたり、廊下などには必要最低限のインテリアを配置し、玄関は靴箱に靴を収納し、トイレは汚物の放置を避け、定期的に回収し、居間や廊下の壁には季節感が味わえる壁画を飾り、テーブルには季節の花を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にクッションを配置したことにより、自然に集まるようになり、そこで思い思いの会話をしたり、テレビを見たり、また、マッサージチェアを窓際に設置しそこで堤防を眺め、一人で過ごしていたり出来ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83  ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスや寝具を持ってこられており、また、配置も本人の希望を踏まえ過ぎやすいよう配慮している。また、本人が使わないが無いとイケないものもあり、それぞれの思いを尊重している。また、壁には季節感が出るようなもの、本人の作品を貼るなど工夫している。		
84  ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝昼の食事時、利用者がホールに出ている間に、適時窓を開け換気を行なっている。温度計・湿度計を小まめに確認し、冷暖房の調節を行なっている。また、外気との温度差に気をつけ、補温具（ひざ掛け）などの配慮と加湿器の設置をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85  ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、食堂の床はクッション性の二重構造であり歩行しやすくなっており、手摺りはトイレ、廊下、浴室とあり、必要に応じ使用している。また、居室、トイレ等の扉は開閉し易い重さとなっており、居室には全室洗面台の設置がある。ベッドの高さの調整、衣類が取り出し易いように配置の工夫をしている。		
86  ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室が分からず混乱をする方に、自室扉に大きく名前を表示し、またトイレについても扉に表示している。また、表示する時は、目の高さに応じて、分かりやすい位置に表示している。		
87  ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭には野菜を植え、収穫の楽しみを味わい、焼き芋などをしたりと思い出作りを行なっている。また、ベランダにテーブルを置き、晴天の日はティータイムで気持ちいい風に当たりながら風景を眺め、和やかな雰囲気でお過ごせるようにしている。また、ベランダに季節の演芸を行っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節感を感じれる創作活動や、地域行事に積極的に参加し、地域に開かれた施設とし、日々のケアを通じ職員も共に成長出来る施設づくりを行っている。